

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 74 号

2017(平成29)年5月20日(土)

## ぜん ごと さい だん 前 後 際 断

てらこや ろんごしゆく しゅさい につた おさむ  
寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

過日、某禅寺の住職をしている大学時代の後輩に会う機会があった。古希を迎えたとは思えないキリッとした風貌と、悟りの境地を開いたかのような雰囲気には圧倒させられた。

私が「論語の補助教材を長時間かけて作成していると、最近とみに疲れやすく目がかすんで集中力がなくなっているんだよ。やっぱり年かね。」と話すと、彼は「そりゃあ、そうですね。人間70を過ぎると皆同じじゃないですか?」と。

「ところで今日は、久しぶりに会ったのだから住職の何かいい話でも聴かせてくれないかな」と頼むと、「いい話かどうかは別にして、禅語で『前後際断』という言葉がありますが、先輩ご存知でしょうか」と。それはたまたま私の卒業時に恩師から贈られた言葉だったこともあり、うろ覚えだが知っていたので、「端的に言えば“今を生き切る”と言うような意味だったと記憶しているけれど違ったかな。」と答えると、「さすが先輩! その通りですよ。」とのこと。胸を撫で下ろした次第である。

住職は言葉を選びながらわかりやすく説明してくれた。

「『前後際断』というのは、日本における曹洞宗の開祖である鎌倉時代の道元禅師が説いた言葉です。

つまり、この『前』というのは過去のことで、『後』というのは未来のこと。その『際を断つ』とは、過去も未来も断ち切って、今この時に集中することの大切さを言っているのです。」と。合点である。

人はとかく過去の失敗や決断を嘆きながら、今を過ごしているのかも知れないし、他方、未来に対して不確実な不安を抱いたり、逆に都合のいいことが起こるのではないかと空想したりして、今を過ごしているのかも知れない。つまり、過去・未来に捉われ過ぎて、今を見据えて生きていない状態だということだ。過去にも未来にも捉われることなく、今この瞬間を精一杯、心を込めて生き切るということ。

そのことが、『前後際断』の持つ意味になるのであろう。

この寺子屋・こども論語塾に集う皆が、今なすべきことに集中する。その集中する心の中にこそ、人としての望ましい生き方を決定づける人生哲学が潜んでいると悟るはずである。

## じゆく せい しょう かい 塾 生 紹 介

やまもと かつら すぎた まきこ  
山本 桂さん 氏 名 杉田 万亀子さん

近代美術史(ラテンアメリカ) 好きな教科 英語(学生時代)

旅行(40ヶ国)・映画 趣 味 軽登山、スキー

父と新田先生(努力家・心が広い) 尊敬する人 全盲ろう者で東大教授の福島智氏と母親令子さん

### そ の 他

お茶を習って15年になるとのこと。好きな食べ物は、おにぎり。特技はスペイン語・英会話・ムックリ(アイヌ民族楽器)で、中でも英会話はペラペラ。

ヨガを習っているとのこと。好きな食べ物は、ゴボウの天ぷらで最近は絹ごし豆腐に凝っているそうです。特技はピザとパンを焼くこと。

### 先生からのコメント

私の自慢の教え子の一人です。桂君の魅力は弱気を助け強気を挫く信念の持ち主であることですが、それは今も変わっていません。本人は、もっと気楽に仁の心を実践したいそうですが、まずは親孝行からやっているとのこと、頭が下がります。

講義は6回程受けたそうです。まだ良くわからないと謙遜していますが、何かしら見えない力のようなものを感じているとのこと。以前、子供の塾生に「論語って楽しい?」と聞いたところ、「楽しいです」と速答だったので、杉田さんは驚いたそうです。今の私は素読だけで精一杯ですが、子供達のように楽しいと思えるようになるまで頑張れるといいのですが、と話してくれました。謙虚さを忘れない杉田さんの誠実な人柄に私はふと心が洗われる思いに駆られました。

来月(6月)の塾生紹介は、数馬田 史織さんと舜君です。